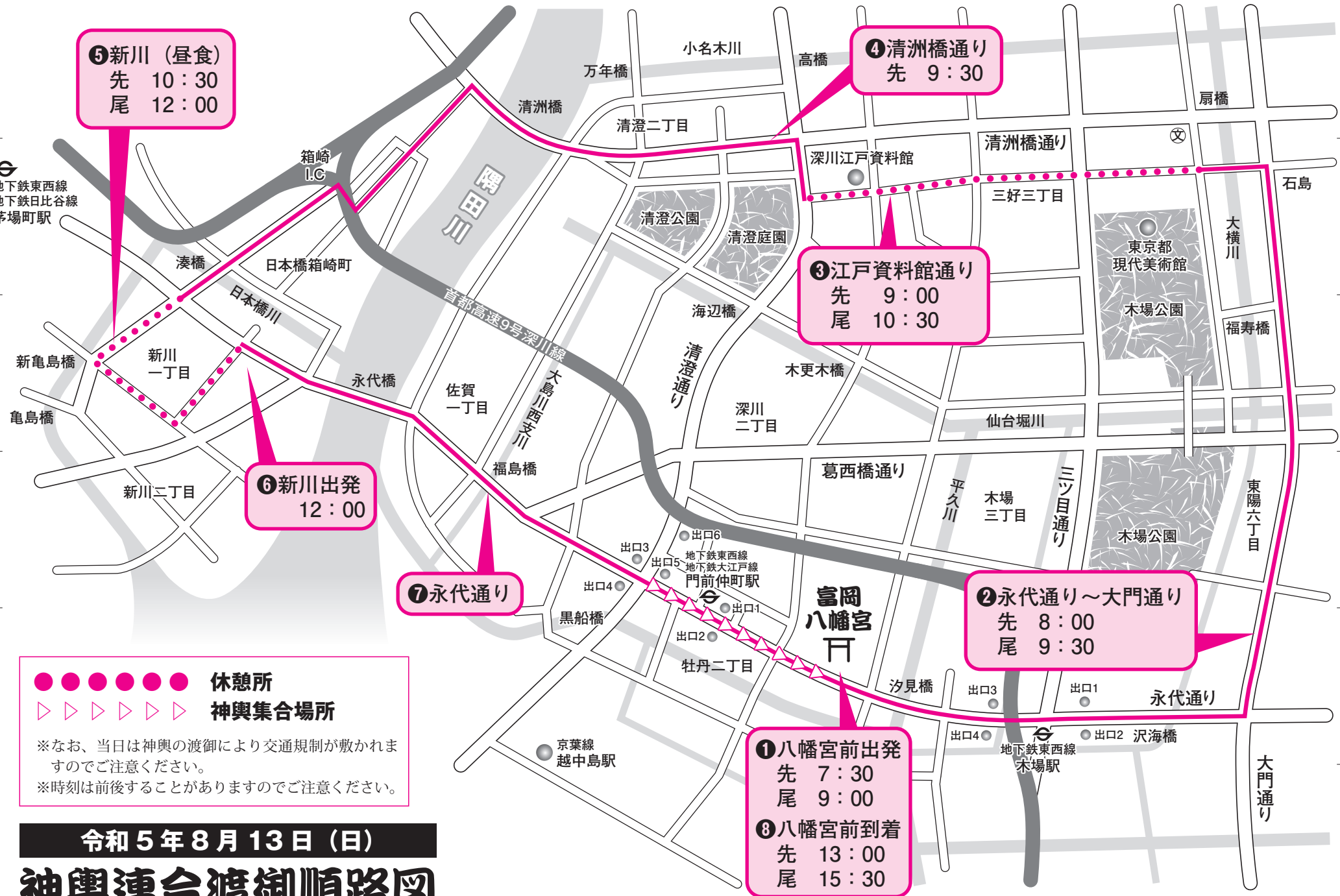


- 七番 佐賀
- 八番 福岡
- 九番 福岡
- 十番 仲町
- 十一番 清澄
- 十二番 清澄
- 十三番 白河
- 十四番 白河
- 十五番 東陽
- 十六番 東陽
- 十七番 東陽
- 十八番 東陽
- 十九番 東陽
- 二十番 東陽
- 二十一番 東陽
- 二十二番 東陽
- 二十三番 東陽
- 二十四番 東陽
- 二十五番 東陽
- 二十六番 東陽
- 二十七番 東陽
- 二十八番 東陽
- 二十九番 東陽
- 三十番 東陽
- 三十一番 東陽
- 三十二番 東陽
- 三十三番 東陽
- 三十四番 東陽
- 三十五番 東陽
- 三十六番 東陽
- 三十七番 東陽
- 三十八番 東陽
- 三十九番 東陽
- 四十番 東陽
- 四十一番 東陽
- 四十二番 東陽
- 四十三番 東陽
- 四十四番 東陽
- 四十五番 東陽
- 四十六番 東陽
- 四十七番 東陽
- 四十八番 東陽
- 四十九番 東陽
- 五十番 東陽
- 五十一番 東陽
- 五十二番 東陽
- 五十三番 東陽
- 五十四番 東陽
- 五十五番 東陽
- 五十六番 東陽
- 五十七番 東陽
- 五十八番 東陽
- 五十九番 東陽
- 六十番 東陽
- 六十一番 東陽
- 六十二番 東陽
- 六十三番 東陽
- 六十四番 東陽
- 六十五番 東陽
- 六十六番 東陽
- 六十七番 東陽
- 六十八番 東陽
- 六十九番 東陽
- 七十番 東陽
- 七十一番 東陽
- 七十二番 東陽
- 七十三番 東陽
- 七十四番 東陽
- 七十五番 東陽
- 七十六番 東陽
- 七十七番 東陽
- 七十八番 東陽
- 七十九番 東陽
- 八十番 東陽
- 八十一番 東陽
- 八十二番 東陽
- 八十三番 東陽
- 八十四番 東陽
- 八十五番 東陽
- 八十六番 東陽
- 八十七番 東陽
- 八十八番 東陽
- 八十九番 東陽
- 九十番 東陽
- 九十一番 東陽
- 九十二番 東陽
- 九十三番 東陽
- 九十四番 東陽
- 九十五番 東陽
- 九十六番 東陽
- 九十七番 東陽
- 九十八番 東陽
- 九十九番 東陽
- 百番 東陽

- 一 番 宮元
- 二 番 仲町
- 三 番 永代
- 四 番 永代
- 五 番 永代
- 六 番 永代
- 七 番 永代
- 八 番 永代
- 九 番 永代
- 十 番 永代
- 十一 番 永代
- 十二 番 永代
- 十三 番 永代
- 十四 番 永代
- 十五 番 永代
- 十六 番 永代
- 十七 番 永代
- 十八 番 永代
- 十九 番 永代
- 二十 番 永代
- 二十一 番 永代
- 二十二 番 永代
- 二十三 番 永代
- 二十四 番 永代
- 二十五 番 永代
- 二十六 番 永代
- 二十七 番 永代
- 二十八 番 永代
- 二十九 番 永代
- 三十 番 永代
- 三十一 番 永代
- 三十二 番 永代
- 三十三 番 永代
- 三十四 番 永代
- 三十五 番 永代
- 三十六 番 永代
- 三十七 番 永代
- 三十八 番 永代
- 三十九 番 永代
- 四十 番 永代
- 四十一 番 永代
- 四十二 番 永代
- 四十三 番 永代
- 四十四 番 永代
- 四十五 番 永代
- 四十六 番 永代
- 四十七 番 永代
- 四十八 番 永代
- 四十九 番 永代
- 五十 番 永代
- 五十一 番 永代
- 五十二 番 永代
- 五十三 番 永代
- 五十四 番 永代
- 五十五 番 永代
- 五十六 番 永代
- 五十七 番 永代
- 五十八 番 永代
- 五十九 番 永代
- 六十 番 永代
- 六十一 番 永代
- 六十二 番 永代
- 六十三 番 永代
- 六十四 番 永代
- 六十五 番 永代
- 六十六 番 永代
- 六十七 番 永代
- 六十八 番 永代
- 六十九 番 永代
- 七十 番 永代
- 七十一 番 永代
- 七十二 番 永代
- 七十三 番 永代
- 七十四 番 永代
- 七十五 番 永代
- 七十六 番 永代
- 七十七 番 永代
- 七十八 番 永代
- 七十九 番 永代
- 八十 番 永代
- 八十一 番 永代
- 八十二 番 永代
- 八十三 番 永代
- 八十四 番 永代
- 八十五 番 永代
- 八十六 番 永代
- 八十七 番 永代
- 八十八 番 永代
- 八十九 番 永代
- 九十 番 永代
- 九十一 番 永代
- 九十二 番 永代
- 九十三 番 永代
- 九十四 番 永代
- 九十五 番 永代
- 九十六 番 永代
- 九十七 番 永代
- 九十八 番 永代
- 九十九 番 永代
- 百 番 永代



●●●●●●●● 休憩所
 ▷▷▷▷▷▷▷▷ 神輿集合場所

※なお、当日は神輿の渡御により交通規制が敷かれますのでご注意ください。
 ※時刻は前後することがありますのでご注意ください。

令和5年8月13日(日)
神輿連台渡御順路図

- ① 早朝より各町の神輿五十三基が永代通りに集結。「ドンドン」出発の花火が鳴り響くと、いよいよ連台渡御の始まり。
- ② 木場から大門通りを北へ、各町内の御神酒所前はより一層盛り上がりです。
- ③ ここで三十分の休憩に入ります。おにぎりや飲物を用意した給与班が大活躍。狭い通りは熱気でムンムン。
- ④ 清澄通りから清洲橋通りへ、清澄交差点では差し上げ、舞い上げといった技がみられます。清洲橋を差して渡る神輿も見もの。
- ⑤ 午後のクライマックスへ向けて腹ごしらえ。リラックスした担ぎ手達の姿が見られます。
- ⑥ 昼食を終えて出発です。ここからは木遣り、手古舞がつき神輿渡御を先導します。永代橋は午後最初の見どころです。
- ⑦ 祭りはいよいよ最高潮。永代橋を過ぎ最初の見せ場は佐賀町名物のトラックからの豪快な水掛け。永代出張所前では消防団による滝のような放水。不動堂前では宮元のトラック水掛けが待ち受けています。
- ⑧ 約八キロの渡御を終え、八幡宮前に到着。最後の手締めで、三年に一度の連台渡御は大きな余韻を残しつつお開きになります。